ひやさいのある図書館 ～新たな本に出会える場所～

No.1

第三回卒業研究審査会 02月05日 （金）
5617037 重松 晃平

背景

図書館は情報の拠点として位置付けられ、現在はインターネットの普及によって、今まで図書館に足を運び調べ物や読書をしていた利用形式が変化し、自宅からインターネットによって手軽に調べることができるようになった。また若い人の活字離れも進み、今後の新たな図書館のあり方が求められている。情報拠点の役割だけでは、バーチャルとしての情報機能だけでも十分対応できるとみなされ、利用者の減少にもつながっている。それに対して、1990年代から滞在型図書館が増加し、場としての図書館の持つ空間性についても再考する必要があると考える。

目的

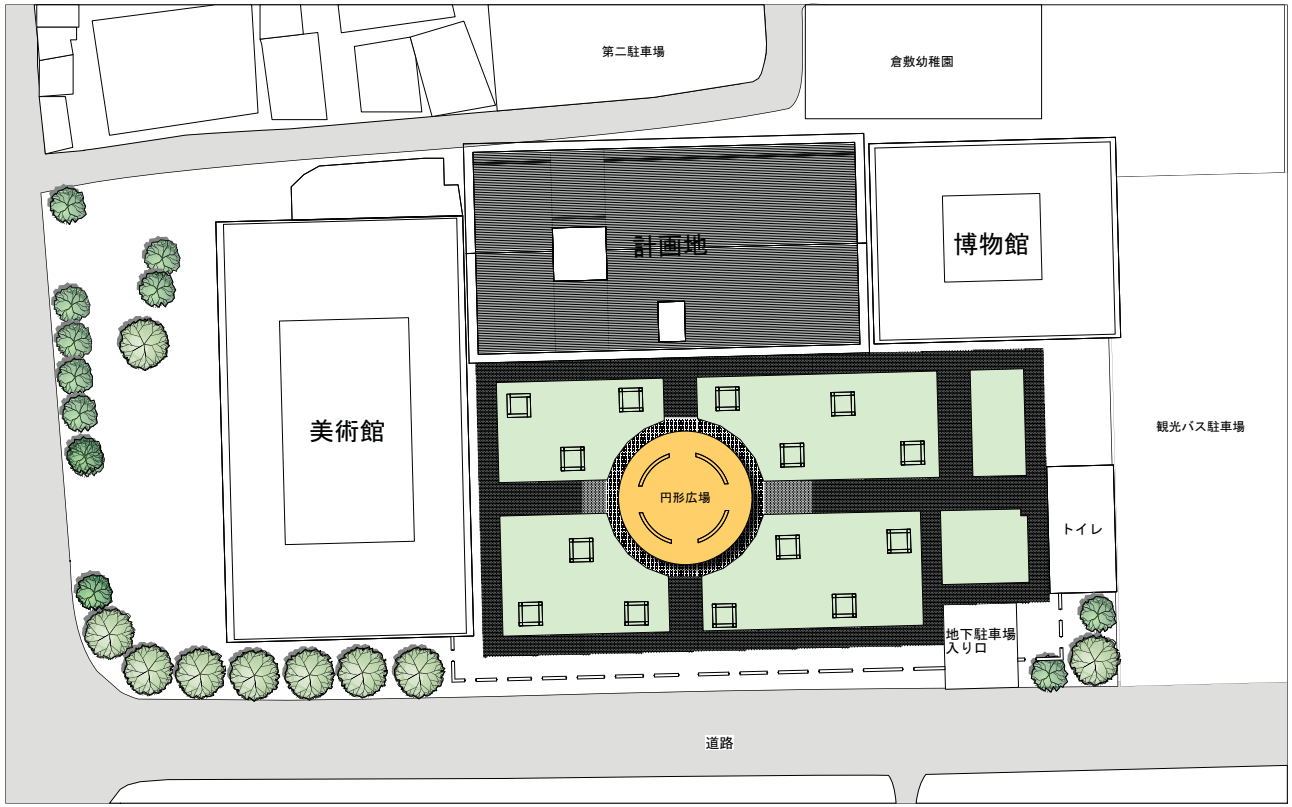
倉敷市立中央図書館も利用者が減少し、開館から今年で37年になり老朽化が進んできている。本計画では、滞在型利用を前提に、市民が行きたくなる図書館として生まれ変わるだけでなく、休日などに一日ゆったりと過ごせるような場としての空間性のある図書館を計画することを目的とする。

倉敷の都市について

倉敷川沿いには昔ながらの白壁土蔵のなまこ壁に、軒を連ねる倉敷格子窓の町家が立ち並び、情緒豊かな街並みが形成されている。
昔ながらの町家は様々な店舗に修復、再生され、新たな魅力となっている。
また、倉敷川沿いから北の路地に入ると観光地化されていない街並みに溶け込むような土蔵や町家を改装したカフェやギャラリーなどがある。

ひやさいのある図書館 ～新たな本に出会える場所～ No.2

第三回卒業研究審査会 02月05日 （金）
5617037 重松 晃平



1 配置図兼敷地図
縮尺: 1:400

計画敷地と敷地周辺

計画敷地は、現在の倉敷中央図書館の敷地を計画地にする。敷地の東方面には美観地区や大原美術館と毎年多くの観光客が訪れる文化・観光ゾーンである。隣接している倉敷市立自然史博物館は浦部鎮太郎によって設計されている。また、倉敷市立美術館は丹下健三によって設計され、国の登録有形文化財として登録されていることからその外観をできるだけ損なわないように考慮する。

駐車場を広場に

現在ある駐車場の地上部分をなくし、地下部分のみにし広場を計画する。広場には今回の計画図書館、美術館、博物館の外観を隠さないようにあまり木を植えず、芝生メインし、そこにはアート作品などを飾るなどし、美術館への興味も沸せるようにする。する。中央には円形の広場を配置し、人々の憩いの場を創り出す。
また、道路側にはアイビースクエアの門をオマージュした壁を配置し、図書館博物館、美術館、広場を一つの空間にする。

ひやさいのある図書館 ～新たな本に出会える場所～ No.3

第三回卒業研究審査会 02月05日 （金）
5617037 重松 晃平

1. 基本方針

① ひやさいを建物内に取り入れ、大きな一つの建物の中に入れ組んだ路地のような図書館にし、ふと迷い込んだ場所で自分だけのお気に入りの本と出合えるような空間を目指す。
② NDC分類された図書の種類のブロックを街区として考え、倉敷の町の路地的空間を取り入れることで、図書館全体をまるで倉敷の街を散歩しているような雰囲気で利用することができる。
③ 利用者はブロックの外側にある入門用の本から興味を抱けば、ブロックの内部にある専門的な本を読むために自由に出入りすることができる。
④ 滞在型図書館としてカフェの設置やブロック間の中庭、読書スペースを各所に取り入れ、利用者が読む場所を選択できるようにする。
⑤ 外観のデザインは周辺の建物が壁主体の閉鎖的なデザインであるために、内部の路地的空間を外からでもわかるように透明感のあるガラスで包む。

2. 建築概要

①一階は路地空間のある書架スペースとし、2階、3階はスラブ床と立体的な路地的通路よって作成する。
②路地空間の上を広く吹き抜けにすることで、図書館の利用者が閉塞感を感じられる空間とする。
③美術館と博物館をつなぐ役割をもたせるために、左右に接続部を設け、横のつながりを創り出す。
④図書館の正面にある駐車場は地下を残して撤去し、広場を配置し、パブリックな空間とする。

3. コンセプト

計画地の周辺にある美観地区、本町、東町の街並みは古き情緒を今も色濃く受け継いでいる。美観地区の観光通りを一歩入ると、入り組んだ細かい路地があり、この路地を倉敷の方言で「ひやさい」という。

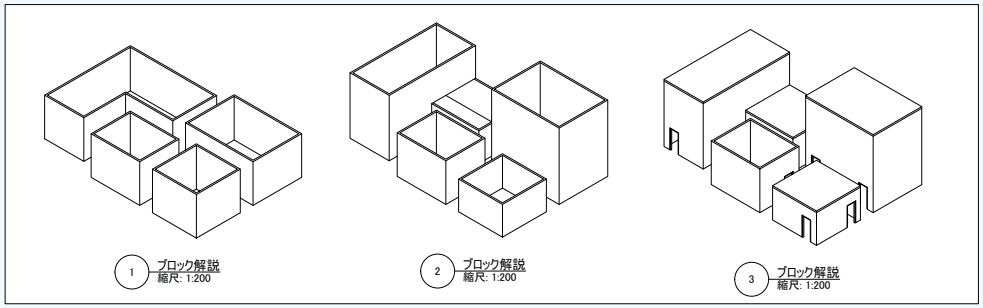
4. 空間構成

一階にはコンセプトである路地のある書架スペースをメインとし、一階、二階、三階を包むように全面カーテンウォールが配置され、一つの大きなブロックとなっている。また、二階と三階は全面カーテンウォールから少し話すことにより大きなブロックの中にもう一つのブロックが存在するようになっている。また、二階、三階の吹き抜け面にはガラス面付きのフェンスを設置する。

5. ダイヤグラム

・黄色…NDC分類によって分けられたブロックエリア
・青色…新聞コーナーや総合雑誌などを配置したエリア
・ピンク色…児童図書など児童向けにされたエリア
・緑色…路地の中にある自然のエリア
・オレンジ色…図書館のスタッフやカフェの店員と図書館を利用しに来た人のどちらもが利用できるエリア
・紫色…図書館のスタッフが利用する管理が主なエリア

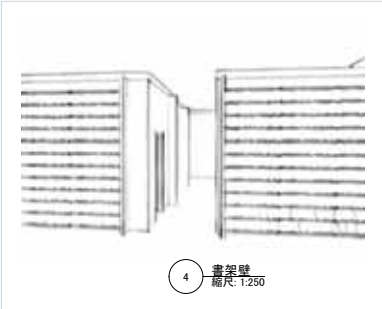
6. ブロック・書架壁解説



均一ではない様々なブロックを作成し、それらのブロック間に路地のような通路を設ける。

二階や三階から見えるブロックが単調にならないようにブロックごとに高さを変え、高低差を作り出す。

ブロックの通路に面した部分に入り口を作り、ブロック内に入れるようにする。また、高さがあるブロックは内部に階段を設置しブロック内で二階を作る。

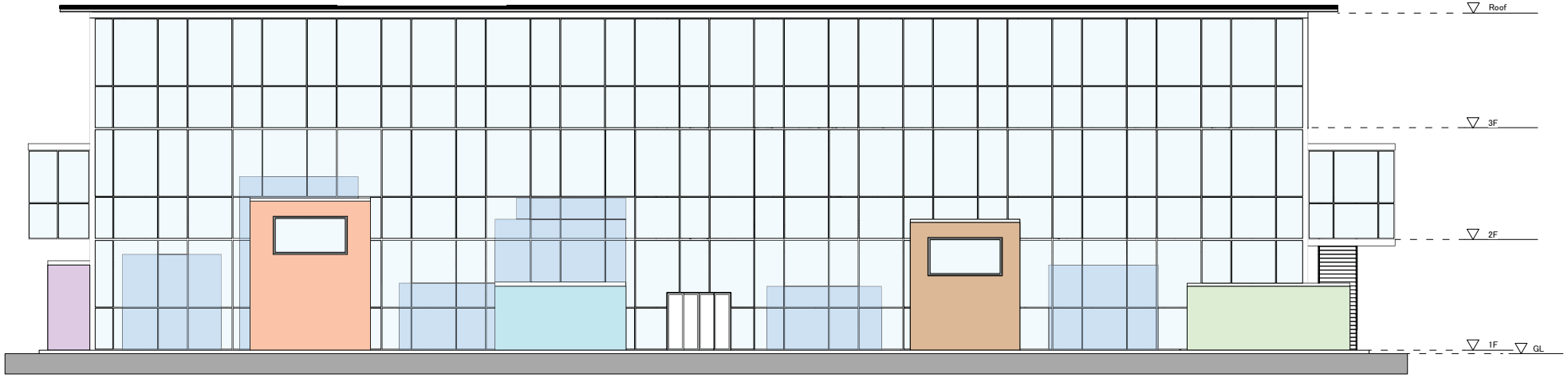


ブロックの壁を書架による壁で作成し、路地に本が立ち並ぶようにする。
また、書架に並べる本を外部はその分野の入門用、内部はより詳しく学べる本にする。

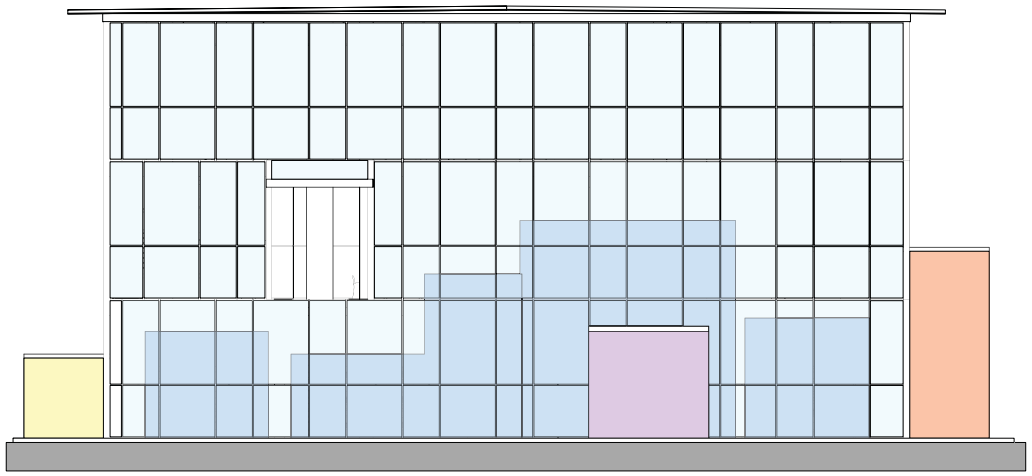
参考通路例のGSIX 蔦屋書店

ひやさいのある図書館 ～新たな本に出会える場所～ No.4

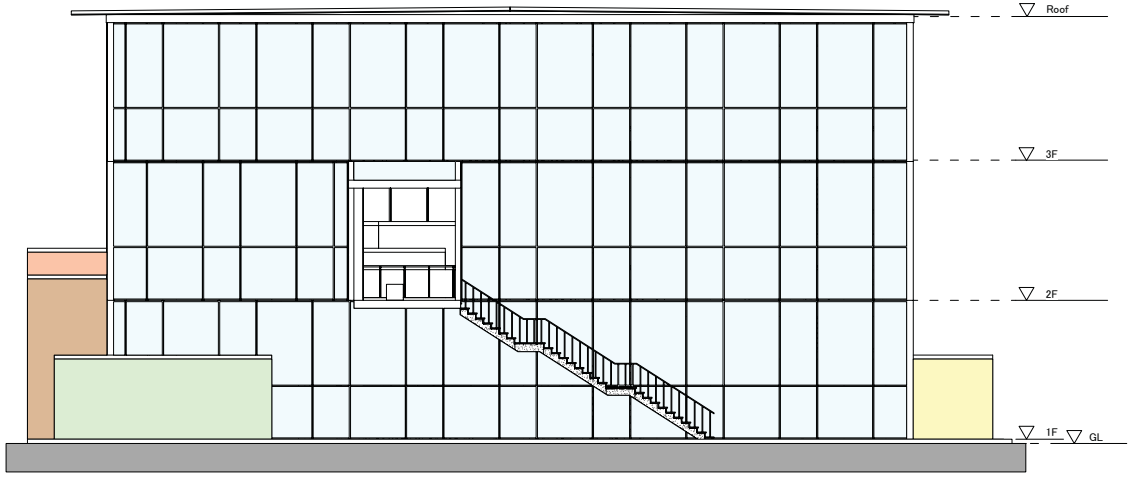
第三回卒業研究審査会 02月05日 （金）
5617037 重松 晃平



1 立面図 東面
縮尺: 1:100



2 立面図 南面
縮尺:1:100

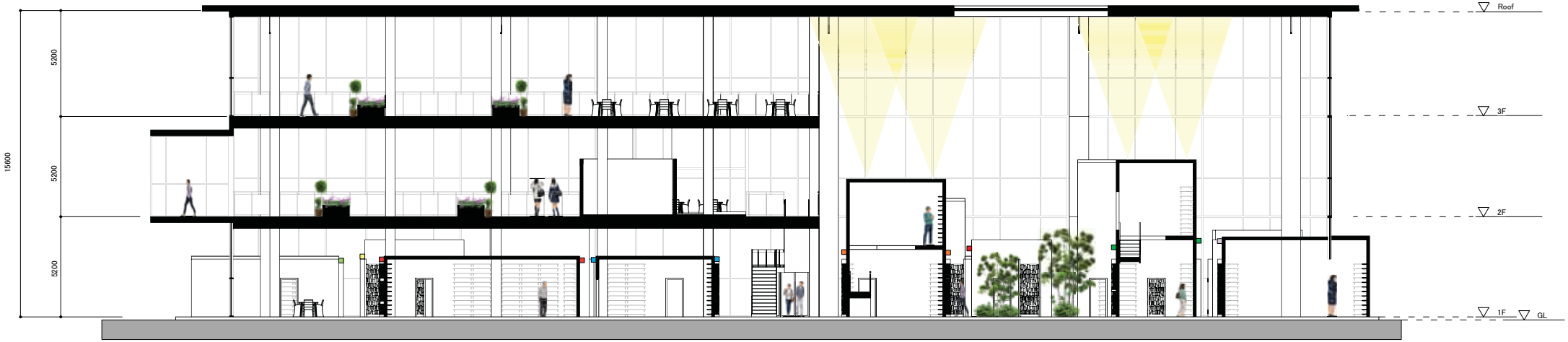


3 立面図 北面
縮尺: 1:100

ひやさいのある図書館 ～新たな本に出会える場所～

No.5

第三回卒業研究審査会 02月05日 （金）
5617037 重松 晃平



1 A-A'断面図
縮尺: 1:100

2 B-B'断面図
縮尺: 1:100

3 C-C'断面図
縮尺:1:100

ひやさいのある図書館

～新たな本に出会える場所～

第三回卒業研究審査会
02月05日　（金）
5617037　　重松　晃平

No.6

一階平面図

一階は今回のコンセプトでもあるひやさい（路地）を取り入れた書架空間が大部分を占めている。
建物への入り口は上下にあり下側がメインの入り口になっている。
書架の通路は均一ではなく幅を変えることによって通路を見たときの路地らしさを創り出している。
書架ブロックの一部は建物の外に飛び出す形となっている。また書架の高さがあるブロックは内部に2階を設置している。
左側の書架スペースには中央部に中庭を設置し、家に見立てた書架ブロックの間の通路を抜けるとある広場を表現する。

ひやさいのある図書館

～新たな本に出会える場所～

第三回卒業研究審査会
02月05日　（金）
5617037　　重松　晃平

No.7

二階平面図

二階には滞在型図書館の要素を担うカフェスペースをはじめ、読書室や学習室を配置した階となっている。また左右にある倉敷市立美術館と倉敷市立自然史博物館との連絡通路を配置している階でもある。
書架ブロックの吹き抜け側ではない全面カーテンウォール側は二階のブロックから離し、大きなブロックの中に小さなブロックを創り出している。二階に上がる階段は2か所あり、下側の階段はカフェにすぐ行ける位置に配置している。
カフェのスペースの一部分を二階ブロックから飛び出させるようにする。

1 二階平面図
縮尺:1:100

ひやさいのある図書館

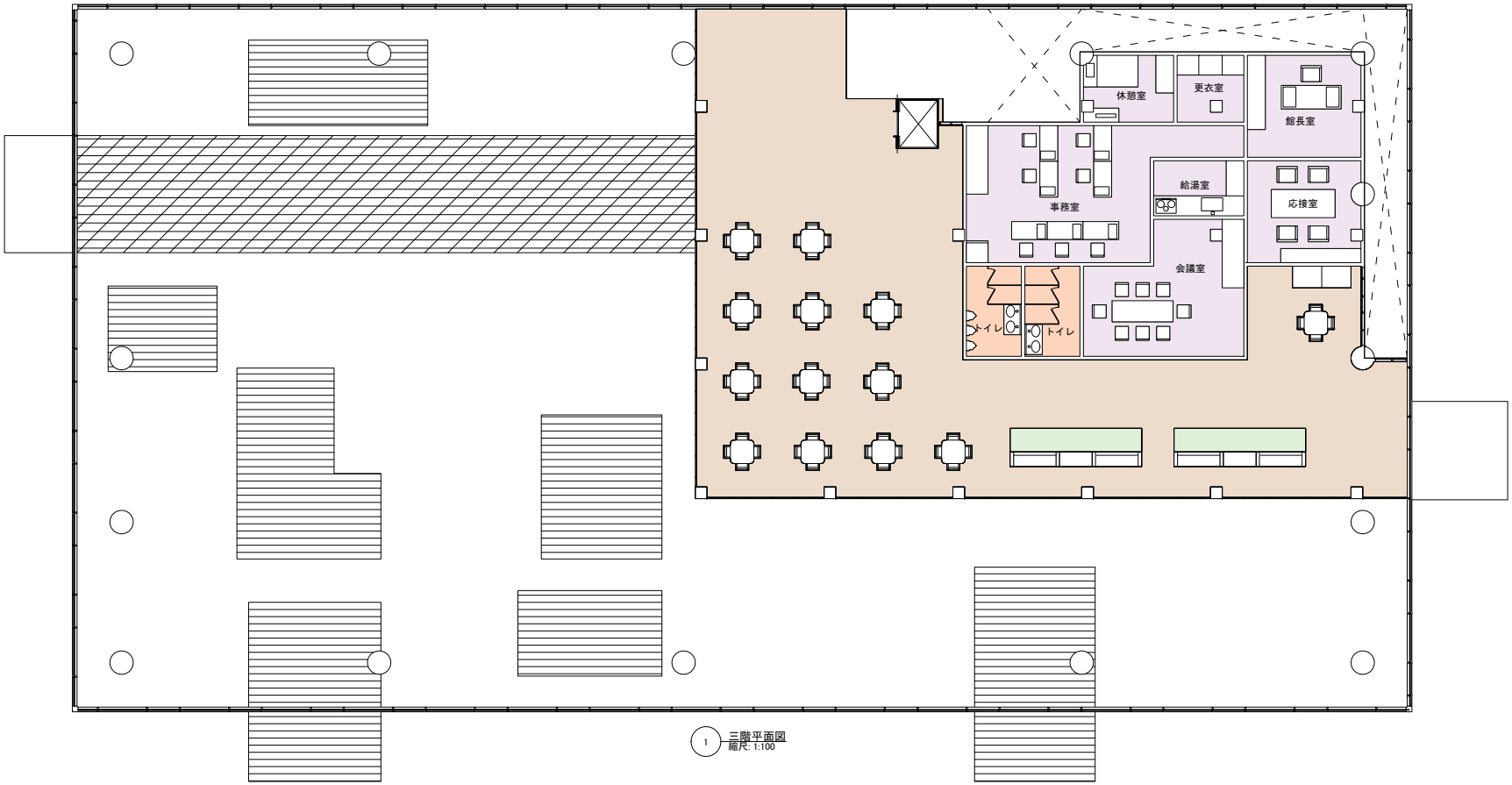
～新たな本に出会える場所～

第三回卒業研究審査会
02月05日　（金）
5617037　　重松　晃平

No.8

三階平面図

三階はエリアの大半が管理を主にする場所となっているが左側の書架側の吹き抜け方面は一般の利用客の人たちがゆったりと読書や勉強をすることのできるスペースを確保している。
二階とは違い、二階から三階へ上がることのできる階段は一つのみである。また二階と同じで書架ブロックの吹き抜け側ではない全面カーテンウォール側は二階のブロックから離し、大きなブロックの中に小さなブロックを創り出している。
吹き抜け側の下をのぞくと今回のコンセプトであるひやさいのある書架空間を上から眺めることができる。



1 三階平面図
縮尺: 1:100